

柵の木からの手紙

2016年 2月号

2月 如 月						
月	火	水	木	金	土	日
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29						

1日：高齢者としょうがい者のための講演会

テーマ「高齢者と障がい者がともにたすけあえる
まちづくりを目指して」

講師：日置 真世 氏
(フリーソーシャルワーカー)

時間：18時開会

場所：しゃきっとプラザ 1階

4日：立春

8日：新月 旧正月 1月 1日

11日：建国記念日

12日：水おち敏栄氏 意見交換会

時間：15時～16時30分

場所：MOA美幌センター

19日：雨水

23日：満月 旧1月 16日

【 百 花 繚 乱 】

朝夕の僅かな陽の長さ、陽光の微かな柔らかさ温かさに感謝の心を持って気付く立春の候。

雪が融けて暖かい春の訪れに向けて、様々な草木は準備を進めているのでしょうか？

花開いて人々から愛でられるのは一時。その為に花開いている訳ではないでしょうけれど、無心に咲く草花に力を頂く私たちがいます。「百花繚乱」、そんな華やかさの蔭には、花開く以上に永い歲月、一木一草の無心の魂が息づいているのでしょうかね。

【 1月 23日(土) 高橋 道議会議員の新春の集い 】美幌グランドホテル 18時～恒例の、新春の集いに、MOA美幌センターから3名が出席しました。

道議の話の中で、心に残ったのは「南アメリカのウルグアイの元大統領」の話。ウルグアイという文字をメモして、帰宅早速「ウルグアイの大統領」を調べてみました。

1992年6月20日～22日にブラジルのリオデジャネイロで地球サミット(国連持続可能な開発会議)が開催され、それから20年後の2012年同日、同じ場所で再び地球サミットが開催されました。その時の会場(リオ会議)での出来事。

世界で最も貧乏な大統領といわれている小国ウルグアイの大統領(ホセ・ムヒカ)。はるばるリオ会議に出席した各国首脳は、自分の演説を済ませると他人の話聞く事も無く会場から姿を消す人が多かった。最後の演説者ホセ・ムヒカの時には、多くの席が空いていました。

彼が残した演説は、これまで無難な意見ばかりを交わし合う他の大統領とは違っていました。

彼が「世界一貧乏な大統領」と言われるのは資産が少ないからではなく、個人資産の殆ど(87%)を寄付しているからなのです。

～ リオ会議 ウルグアイ大統領 ホセ・ムヒカ氏の演説抜粋 ～

… 午後からずっと話されていたことは持続可能な発展と世界の貧困をなくすことでした。私たちの本音は何なのでしょう？ 現在の裕福な国々の発展と消費モデルを真似することでしょうか？ 一部の裕福社会の傲慢な消費を世界の70億から80億の人が出来る程の原料がこの地球にあるのでしょうか？なぜ私たちはこのような社会を作ってしまったのですか？

我々の前に立つ巨大な危機問題は環境危機ではありません、政治的な危機問題なのです。現代に至っては、人類が作ったこの大きな勢力をコントロールしきれていません。逆に、人類がこの消費社会にコントロールされているのです。私たちは発展するために生れてきているわけではありません。幸せになるためにこの地球にやってきたのです。人生は短いし、すぐ目の前を過ぎてしまいます。命よりも高価なものは存在しません。

過度の消費が世界を壊しているのにも関わらず、高価な商品やライフスタイルのために人生を放り出しているのです。消費が社会の牽引の世界では私たちは消費をひたすら早く多くしなくてはなりません。消費が止まれば経済が麻痺し、経済が麻痺すれば不況が現れる。

人がもっと働くため、もっと売るために「使い捨ての社会」を続けなければならないのです。悪循環の中にいるのにお気づきでしょうか。これはまぎれも無く政治問題ですし、この問題を別の解決の道に私たち首脳は世界を導かなければなりません。

国の代表としてリオ会議の決議や会合にそういう気持ちで参加しています。みなさんには水源危機と環境危機が問題源でないことを分かってほしいのです。

根本的な問題は私たちが実行した社会モデルなのです。そして、改めて見直さなければならないのは私たちの生活スタイルだということ。

発展は幸福を阻害するものであってはいけません。発展は人類に幸福をもたらすものでなくてはなりません。愛情や人間関係、子供を育てる事、友達を持つ事、そして必要最低限のものを持つ事。これらをもたらすべきなのです。幸福が私たちの最も大切なものだからです。環境の為に戦うのであれば、人類の幸福こそが環境の一番大切な要素であるということを覚えておかななくてはなりません。

(訳 打村 明)

【 1月 24日 映画 「 普通に生きる 」 】 町民会館 びほーる 14時30分～

美幌町手をつなぐ連絡協議会設立記念式典の一環として行われた映画上映。開始前には式典が行われ、優良勤労者（自立者）として5名の方が表彰されその内の2名は、私の知っている人でした。齊藤さんも立派に表彰を受けました。

この映画は、2012年の秋にしゃきっとぷらざで上映されましたが、今回は制作・撮影プロデューサーの貞末麻哉子さんが、上映終了後に映画の製作の想いを伝えてくれました。

私がいちばん伝えなかった事（「普通に生きる」公式パンフレットより）

「どんなに重い障害の子を持っていても、その子はその子らしくいきいきと暮らせるんだよ。母親だって自分らしく生きたっていいんだよ。」

「必要な支援と人と人とのつながりの中で、いくらでも普通に、心豊かに暮らせるんだよ。」

「どんなに重い障害があっても本人もそしてその家族も普通に生きる事のできる成熟した社会の実現。」…。

いろいろな機会が提供されています。自分に合う情報は逃さない様にして可能な限り出来るだけ自分で参加して自分の感性で感じて生活に活かして行きましょう。

MOA美術館貸出諸道具

2015年12月12日 ～ 2016年1月8日

田中 純子 氏宅

2016年1月6日 文:田中



① 軸 墨蹟一行

百花為誰開

(ひゃっか たがために ひらく)

大徳寺派総務総長 小堀卓巖

(コホリ タクゴン)

百花爛漫と言いますが 毎年春になれば様々な花が咲き乱れます。しかし、その花は決して 誰かの為に咲いているわけでもありません。春が来て気候が暖かくなれば 花は自然に咲きます。自然に、そして無心に咲くのです。

人間は どうでしょうか？ 人間もこの花の様に、自然に、そして無心に生きているのでしょうか？

何事もありのままという事が最も大切であり、最も難しいのです。

墨蹟とは・・・

茶掛けの中では最も位の高いものです。濃茶の席に掛けられるものです。

禅宗では仏像を拝まず 自らの師匠や法統の書をそのまま仏として拝む。

一行物とは・・・

お経の一部を一行に書いて解り易く教えたものです。禅語の中の一部を抜き出している。禅の教えに通じる。



② 白釉紫茶碗 (ハクユムラサキチャワン) 左写真左碗

作: 鈴木 青々 (1914年生れ)

自由な造形、豊かな色彩感を特色とする斬新な作風。



③ 備前緋襷茶碗 (ビゼンヒダスチャワン) 左写真中

作: 金重 慎 (1945年生れ)

器物に藁を巻いて酸化焰焼成した結果得られる赤褐色の条線模様。藁のアルカリ分と胎土に含まれる鉄分とが反応して生じたもので備前焼の緋襷が名高い。

④ 溜塗黒網目平棗 (タメヌリクワミヒラナツメ) 上写真右 作: 中村 湖彩 (1955年生れ)

漆塗りの一つで下地にベンガラ朱で中塗を入れ、その上に透漆を塗って仕上げたもの。